

## 第2部 パネルディスカッション

### スマート農業が興す“農村デジタルトランスフォーメーション”

〈パネリスト〉	栃木県茂木町長	古口 達也 氏
	深山農園株式会社 代表取締役	深山陽一郎 氏
	株式会社コマンドディー代表取締役 兼 ドローンパイロット	稲田 悠樹 氏
	一般社団法人救急医療・災害対応無人機等自動支援システム活用推進協議会 理事長	小谷あゆみ 氏
	農業ジャーナリスト/フリーアナウンサー	三輪 泰史
	株式会社日本総合研究所 創発戦略センター エクスパート	井熊 均
〈モデレータ〉	株式会社日本総合研究所 専務執行役員 創発戦略センター所長	



井熊専務執行役員

(井熊) ただいまご紹介いただきました株式会社日本総合研究所、井熊でございます。

ではこれから、先ほど三輪さんのほうから問題提起をいただきましたので、それを念頭に置きまして、またディスカッションを進めてまいりたいと思います。

先ほどの三輪さんのプレゼンテーションで幾つかポイントがありました。まず前提条件として、今、日本の農業が分水嶺に差しかかっている。非常に厳しい状況が続いてきたわけですが、ここに来て、いろいろな政策の効果もあって、少し上向いた様相も出てきた。今が非常に重要なポイントなんだ、恐らく今が農業の将来にとって非常に重要なポイントであるということに関しては、ここにいる五人の方々でほとんど意見に差はないのではないかなと思います。

2番目は、法人化とか、あるいはスマート化とか、儲かる農業を実現されている方、あるいは企業化を実現された方も出てきたのですが、そういう個別の起業家、農家だけではなくて、面として、農村として発展していくような仕組みをつくらなければいけないというようなことであります。

3番目は、そういった発展のなかで農村の良いところを生かす、再発見する、そういう意味合いで、このDX、デジタル技術というのが大事なのではないかなというような点。

最後に、そういうものを発展させていくためには、個別の特区的なものではなくて、農村一つをパッケージにした、そういうようなデジタルトランスフォーメーション特区的な政策が必要なのではないかな、というようなことがありました。

そういったことを念頭に置きまして、まず初めに、三輪さん以外の四人の方からショートプレゼンテーションをいただいて、その後いろいろなお話をさせていただきたいと思います。

では、私の左側からお願いしたいと思います、栃木県茂木町の古口町長からお話をいただければと思います。

(古口) 私の町で3年くらい前に農業法人を立ち上げました。そのことをちょっとご紹介させていただ

きながら、いろいろと問題提起等も含めてお話をしたいと思います。

その前に、まずは私の町ですが、栃木県茂木町というところですよ。栃木県の東南部に位置していて、茨城県との県境です。従って、茨城県との交流も大変盛んです。

人口1万2,000人。高齢化率がもう40%を超えました。面積は172km<sup>2</sup>で、東西12km、南北24km。東西12kmはいいのですが、南北24kmですから、端から端まで行くのに35分ぐらいかかるんですね。選挙がとても大変な町です。(笑)



さて今回、町が主導して農業法人を立ち上げたのですが、1番の理由は、道の駅への野菜供給です。

「道の駅もてぎ」は年間売上10億円を超える人気スポットです。雇用が100名ほどおります。特に野菜が人気ですが、私がずっと言っているのは、「おじいちゃん、おばあちゃんが自分の家の前の畑で自分が食べるため、孫に食べさせるためにつくった野菜の残りを出してちょうだい」ということです。それはなぜかと言いますと、農薬をできるだけ使わないからです。それが人気の秘訣となっています。15年ほど前には、約250名の出荷者がおりました。ところが、皆さんも高齢化ですから、やめてしまう人、亡くなってしまう人がいて、現在は165、166名の方の登録となっています。私はこういうことに非常に危機感を感じて、道の駅自らが野菜の供給場所を持つべきではないかということから、今回、法人の立ち上げを考えました。

もう一つは、耕作放棄地対策です。

それから、農業もやっぱり産業の域まで高めたい。ここのところ、わが町にも大変多くの皆さんに来ていただいておりますので、「農業と観光」を組み合わせ、何とか産業の域まで高めて、これで人が食べていけるようにしたい。この二つを融合して、所得の向上に努めたいと思ったことです。

それから、新規就農者ですが、私の町には年間15~16件ほど、茂木で農業に従事したいという方が来るんですね。このうちの二人か三人は無農薬農業をやりたい。その方の思想信条やライフスタイルの問題ですが、それで食べてゆくというのは少し大変だと思います。

そのほかは、「人生の楽園」を見たり、田舎暮らしの本を見たりして、憧れで来るんですよ。で、「貯金は幾らありますか」と聞きますと、「大体100万円あるかなあ」とか言うんですよ。「その程度では死んでしまいますよ」と。だって、うちの町、冬なんかは寒いですから。だからこういう方は、今まで実は、やんわりとお断りしていたんです、厳しい話をして。でも職員が、「町長、せっかく来るのに断るといのはおかしいし、もったいない」という。それでは、その皆さんが研修や、農業の現実を知る場、そういうことのためにもいいんじゃないかという思いで法人を立ち上げました。

そういうなかに、安倍総理が数年前にオランダを視察して、これからは日本でも次世代型の施設園芸を推進したいと述べられた。これを聞いた時に私は、中山間地域にこそ、それが必要だ、狭い耕地でも反収を上げられる、そう思いました。しかし、そのときの次世代型農業の助成金がついたのが高速道路

## 美土里農園の創設

- ①中山間地域の次世代型施設園芸の追求
  - ・環境制御システムの導入
  - ・AI・ICT等先端技術の実験の場
- ②新規就農希望者の受け入れ
- ③農業と観光の融合
- ④道の駅への野菜供給
- ⑤耕作放棄地対策

のすぐそばで、物流にもよくて、大きい敷地があって、それから20億円、30億円の大きな施設ということで、とても私の町では無理かなと思いました。しかし、私はこういった次世代型の施設園芸は、中山間地域にこそ必要だという考えは今でも同じです。そこで、ここで環境制御システムの導入とか、AIとかICTの先端技術の実験の場にもしていきたいと考えました。

パワーポイントをご覧ください。

これ、実は、6.4ヘクタールの場所なんですね。今、きれいに耕地整理ができていますけれども、耕作放棄地でした。この真ん中には墓場なんかもあるんですよ。で、ここを太陽光発電にするなんていう話があったので、32軒の地権者の皆さんにお願いをして、これをお借りすることができました。

今、まずは経営を安定しないといけないですから、1度にいろんなことをやるよりは反収の上がるものということで、イチゴを始めました。また、県の指導でアスパラを始めました。この右の上のほうに横線が見えるのがハウスですが、今年はイチゴ12棟、アスパラ4棟で、実質的には四人でやっています。

## 美土里農園全景



---

そして、これは昨年建った管理棟です。この中にきちんと作業場や事務室、シャワー室、洗濯室、できれば来た方にもここでイチゴを調理していただきたいということで、今年、実際にもう始まっているんですが、体験室なども兼ね備えています。

## 農業体験・集出荷施設



そしてこれがハウスですね。両側にハウスを並べてやっているところです。右側が育苗施設になります。

## イチゴ1 2棟とアスパラガス4棟



---

イチゴハウスの内部です。おかげさまで、本当に甘いイチゴができました。あまり宣伝していませんでしたが、今は口コミでお客様が増えています。糖度12度以上を目標としていますけれども、今は毎週末100人くらい来ます。申しわけないですけれども、人数制限しなければならない日もあります。

## イチゴハウス内



これはアスパラです。アスパラはまだ始まったばかりで、これからというところですが、これもそこそこです。

この他に、空いている3.5ヘクタールではお蕎麦をつくっています。実は、一昨年のお蕎麦は、白い花が咲いてすごよかったんですが、残念ながら、悪天候のために途中で日照時間が足りなかったりして、1粒の蕎麦の実もとれませんでした。農業というのはかくも恐ろしいものだとということを身をもって体験しました。今年は、おかげさまで、助成金等もありますけれども、200万円の収入がありました。

## アスパラガスハウス内



さて、このなかで日本総研さんに来ていただいてMY DONKEYの実験をしてもらっています。また、このMY DONKEYが地元のナス農家、先ほど、三輪さんからご説明がありましたけれども、ナス農家でも実験していただいて、2軒のナス農家だったんですが、ぜひこういうものをもっともっといろいろ教えてほしいという話があって、大変役立っています。

右側が、ミャンマーからの技術者2名です。

## 農業ロボットとミャンマー技術者

